



第 1 回出動公式記録

2004. 1. 16. R. 2. 0

2003年10月19日（日）～21日（火） 山口市

山口県精神保健福祉協会／山口県精神保健福祉センター

<http://www.h7.dion.ne.jp/~crt/>

C R T とは

C R T（クライシス・レスポンス・チーム）は、山口県内の小中高校で災害・事故・事件が発生し、多くの子どもたちにこころの傷（トラウマ）を生じかねないような場合に駆けつけるこころの専門家チームで、2003年8月に山口県でスタートしました。このチームを運営しているのは山口県精神保健福祉協会（会長：渡辺義文山口大学医学部神経精神医学講座教授）で、県健康福祉部健康増進課に事務局があります。

学校や教育委員会からの派遣要請により数名の専門家チーム（精神科医、臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等）を**3日間**派遣します。支援内容は、①教職員のサポート、②ケアプラン策定の手助け、③被害評価と被害者への応急対応、④被害者と家族への心理教育（説明資料作成など）、⑤その他です。

第 1 回出動

2003年10月19日（日）早朝、山口市で小6の双子が母親に絞殺されるという事件が起きました。学校外の事件であり、他の子どもたちは目撃していませんが、事件の衝撃度が極めて大きいと考え、派遣を決定しました。日曜日ということもあり、要請から到着まで3時間弱というスピーディーな展開ができました。

派遣隊員

小学校より派遣要請を受け、山口県精神保健福祉協会専門会員のうちC R Tに登録されている10人の中から、6人の隊員を派遣しました。

隊長 河野通英（かわのみちひで） 精神科医／山口県精神保健福祉センター所長

副長 稲野靖枝（いなのやすえ） 精神科医／長門一ノ宮病院医師

副長 廣岡逸樹（ひろおかいつき） 臨床心理士／山口県精神保健福祉センター主査

他隊員3名（臨床心理士、精神保健福祉士、児童指導員）…氏名・所属を公表していません

精神保健福祉センター

C R Tに登録されている精神保健福祉センター職員2名は、精神保健福祉センター業務の一環として参加しました。県精神保健福祉行政としても初期から関与し、スムーズなアフターケアにつなげるとともに、今後の山口県のP T S D対策のあり方を考える上での参考とさせていただきました。また、学校へのアフターケアを担当しました。

①教職員のサポート

教職員は「この対応で良いのだろうか？」と不安を抱えつつ対処していました。専門家がコメントし、また、校内に待機していつでも質問に応えられる体制をとることで、教職員が自信を持って対応していただけるように心掛けました。教職員の対応が一貫しないと、子どもたちの自然な回復に悪影響を与えてしまうからです。また、強いストレスに曝されている教職員の気持ちをほぐすようなグループセッションも行いました。

②ケアプラン策定の手助け

当面学校としてどのように対応していったらよいかについて協議しました。特に葬儀に向けての準備や参列のあり方については、きめ細かい指導をしました。

葬儀参列への対応

- 葬儀に向けて、作文を書いたり、絵を描いたり、鶴を折ったり、その子なりの方法で、追悼ができるように配慮しました。子どもたちの弔辞についても子どもの気持ちが反映された内容になるように、また、相当なストレスになるので、保護者も含めてよく見てもらうように気を付けていただきました。
- 葬儀の参列児童をどこまでにするかで協議しました。6年生3クラス全員を教員が引率して連れて行くこととし、他学年で希望があれば保護者に引率していただくこととしました。
- 保護者向け文書で、子どもたちの中には強い不安を感じる子どももいるので、決して強制されないようお願いをした上で、参列の可否の回答をいただくこととしました。
- 少人数の子どもが参列しないことになりましたが、教師から参列しないという決断をすることも大切であることを伝えてもらいました。また、出棺の時間に合わせて黙祷をすることを提案し、子どもたちも自然に応じてくれました。
- 棺に花を入れることについては、強いショックを受ける子どももいるであろうことから、特に希望がある場合を除き、教師が子どもたちから花を受け取り、代表で行うという方法を採用することを決めたのですが、実際には多くの子どもたちが自らお別れをすることを希望したため、希望した子どもにはお別れをしてもらいました。
- 子どもたちは悲しみを自然に表し、「やり終えた」感覚を持てたのではないかと、教師は実感しました。学校に戻って給食時間にはいつもの元気な様子に戻っていました。
- 前もって気になっていた子どもも、特に問題はなく、この時点ではおおむね正常な喪のプロセスを歩んでいると判断しました。

③被害評価と被害者への応急対応

今回は他の児童の直接被害・目撃が無かったので、C R T隊員は子どもたちの前には極力姿を見せず、不安をあおらないように留意しました。児童や保護者への直接ケアは行わず、教職員にどういうサインに注意をしたらよいか説明し、気になる子どもについて協議を行いました。

④被害者と家族への心理教育（説明資料作成など）

到着直後から保護者向けの文書作成に協力しました。

⑤その他

10月20日（月）の朝開かれた記者会見に同席し、専門家の立場からコメントしました。特に取材や報道が子どもたちにどのような影響を与えるか説明しました。

教室の撮影時に立ち会い、映像の使い方に注意して頂くよう具体的なお願いをしました。引き続き近くの公民館で学校長と記者会見に臨みました。その時に配付した資料です。葬儀の取材・報道についてもどのような影響があるのかを説明し、各報道機関のセンスに期待することとしました。結果的には子どもたちに対しては抑制の利いた取材・報道がなされており、感謝しております。

本事件における取材報道について

2003年10月20日
山口県精神保健福祉センター
所長（精神科医） 河野 通英

今回の事件報道につきましては、正確かつ子どもたちのこころのケアに配慮いただいた報道を心がけていただいておりますことを感謝申し上げます。

言うまでもありませんが、今回お亡くなりになったお二人に親しかった子どもたちは大きな衝撃を受けております。このことが深いこころの傷（トラウマ）にならぬよう、私どもこころの専門家がお手伝いさせていただくことになりました。

子どもたちは、子どもたちなりに現実を受け止め乗り越えていきますが、その方法やスピードには個人差がありますし、長い時間がかかります。事実は消しようがありませんが、思い出したくないことを無理矢理直面化させるならば、回復ではなく心に傷を与えてしまいます。これを二次被害と呼んでおります。

私ども専門家の支援であっても、本人のニーズを無視して行えばこころに傷を与えることになります。マスコミの取材や報道も同様です。強いられた経験は被害に他なりません。今回、子どもたちへの直接取材は行わないとお聞きしました。適切な対応に感謝いたしております。

一昨年同時多発テロでは、ビルが倒壊していくシーンがテレビで繰り返し報道され、生々しい映像が記憶に焼き付けられてしまったと言われております。哀悼の意味でお亡くなりになったお二人の写真や遺品などが大きく繰り返し放映されたり、悲劇性を強調した報道がなされると、一部の子どもの中には、そのシーンが記憶に焼き付けられ、いつまでもその焼き付けられた記憶に苛まされるという、「トラウマ後遺症」を残す可能性があります。この点におきましては、十分なお配慮をいただきたいと思います。

申すまでもございませんが、お亡くなりになった子どもさんのご親族につきましては、格別な配慮や見守りが必要です。どうか、よろしくお願いいたします。

アフターケアについて

C R Tは3日間のための緊急対応を目的としており、アフターケアは行いません。アフターケアは学校や教育委員会が中心となっていくことになりますが、アフターケアについても協議しました。3日間特に注意が必要なケースは確認されませんでした。今後個別ケアの必要が生じた場合は、学校や教育委員会の相談機能、外部の相談機関、医療機関を使うこととしました。また、学校へのアフターケアとして、精神保健福祉センターが引き続き学校からの相談を受けることになり、2回職員を派遣しました。

CRT 3日間の動き

●出動 10月19日（日）

- 17:50 CRT情報センターに派遣要請が入る
CRT情報センターからCRT委員長河野、他指揮担当委員へ連絡
- 18:15 河野委員長より学校長へ連絡し、派遣決定
- 18:20 河野隊長よりCRT情報センターに隊員の仮確認指示
- 18:55 CRT情報センターより河野隊長に各隊員の結果報告
先遣隊員6名決定し、CRT情報センターから各隊員に出動要請
- 19:10 河野隊長より学校に電話、先遣隊員リスト、到着予定時刻伝える
- 20:30～20:40 隊員6名学校へ到着

●1日目の活動 10月19日（日）

- 20:40 学校、教育委員会と今後の対応について協議開始
まずは保護者向け文書について詳しく検討した
続いて葬儀の参列や準備について協議した
会議を3回行い、最後の会議は1:40であった
- 1:45 隊員4名は学校を出る 2名泊まり込み、報道関係者向け文書を作成した

●2日目の活動 10月20日（月）

- 8:30 職員会議へ出席（3名）、全職員にCRTの紹介、この後1名学校を出る
- 8:35 児童が全校集会に出ている間に教室撮影あり、マスコミへの対応を行う
- 9:10 公民館で記者会見（学校長、河野所長）約30分間 引き続きマスコミ対応
- 13:10 職員会議出席 隊員2名到着（計4人） 葬儀への参加方法等確認
午後は、関係各方面と協議
- 16:30～17:00 職員会議出席、簡単なレクチャーを行う
- 17:00～18:30 気になる子どもについての相談や
教員のメンタルケア、教育委員会を交えた協議を行った
- 20:15 通夜での状況を聞き、協議
- 20:30 隊員5人全員が学校を出る

●3日目の活動 10月21日（火）

- 8:10 河野隊長学校着
- 8:35 職員会議出席、葬儀参列の件確認
- 10:20 6年生が葬儀へ出発（CRTは校内で待機）
- 11:00 市教委を交えての協議（隊員4人）
- 13:30 葬儀の状況報告と今後についての協議、教員のメンタルケア
- 14:15 撤収、隊員4人学校を出る

※上記以外にも個別に教職員や教育委員会担当者といろいろな協議を行いました。また、藤森和美 CRT顧問に電話によるスーパービジョンを2回受けました。

CRT情報センター 0835-26-1152（子ども家庭支援センター海北）

話し中の場合には 0835-22-2044（防府海北園） 岩城満園長

※教育委員会または学校長からの派遣要請（または派遣の相談）を24時間受け付けますが、個人からの依頼には対応いたしません。

CRT委員会 2003.12.現在

- 委員長 河野通英（山口県精神保健福祉センター所長／精神科医）
- 副委員長 稲野靖枝（長門一ノ宮病院医長／精神科医）
- 副委員長 廣岡逸樹（山口県精神保健福祉センター主査／臨床心理士）
- 委員 岩城 満（防府海北園園長／情報センター担当）
- 顧問 藤森和美（聖マリアンナ医学研究所カウンセリング部部长）